

読解力を高める国語科学習指導の在り方

武雄市立武内小学校 教諭 岩永 圭子

白石町立福富小学校 教諭 宮崎 泰仁

佐賀市立鍋島中学校 教諭 澁谷 由美子

1 研究の趣旨

「佐賀県教育の基本方針」によると、思考力・判断力・表現力の育成と一人一人が意欲をもって主体的に学ぶことができるよう、学ぶ意義や目的を理解させていくなどの効果的な指導に努めることの必要性が求められている。

国語科においては、近年、読解力の低下が問題となっている。平成15年度PISA調査では、理解したことの根拠を明らかにして自分の言葉で表現させる問題（自由記述）において正答率が低く、無答率が高かった。文部科学省の読解力向上プログラムでは、「テキストを単に読むだけではなく、考える力と連動した形で読む力を高める取組を進めていくことが重要である」¹⁾と述べている。

平成18年度佐賀県小・中学校学習状況調査では、「読む能力（読むこと）」は、前年度及びそれ以前の調査結果との比較、全国平均との比較において、通過率が上昇し、改善が見られた。その中でも表現活動を取り入れた授業が、読解力向上に有効であると報告されている。

しかし、実際の授業では、一問一答の授業形態に偏ったり、教材の内容を読み取らせることだけに終始したりする傾向がある。そのため、内容を理解するだけで、それを基に感想をもったり、考えたりするまでに至っていないことが多い。

そこで、本グループでは、自分の考えをもたせるために、表現活動の中で「書く」活動を取り入れることにより、読解力を高める国語科学習指導の在り方について探った。

2 研究教科・領域等

小学校国語科，中学校国語科において，研究課題の解決に向けて研究を行った。

3 研究の成果

植山俊宏は、読解力について、コード解釈、表意解釈、推意解釈と3つのレベルに分類し「国語教育では、読みの成果として読んで考えたことも読みの領域に含めることが多いので、読んで考える力も読解力とみなす考えが一般的である。」²⁾と述べている。

本グループでは、読解力を「教材を読んで理解し、それを基に自分の考えをもつ力」ととらえた（図1）。

指導に当たる際、どのような手立てを取れば、読解力を高めることに有効であるかをグループで検討し、図式化した（次頁図2）。

和田美保は「比べるというものの見方・考え方（認識の方法）は、一番日常的で、基本的なものです。……比較することによって、人間や物事

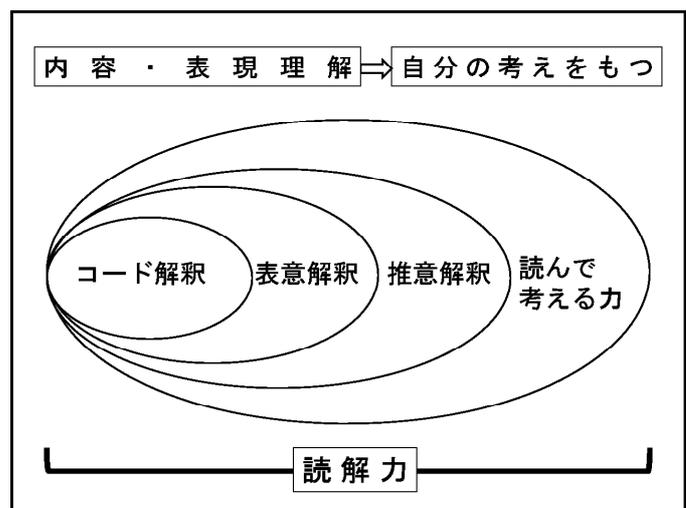


図1 読解力のとらえ方

の本質や意味などが見えてくるからです。」³⁾と述べている。そこで、内容・表現理解の段階で、「比べる」という読みの視点を与えた。「比べる」ことで互いの共通点や相違点に気付かせ、その気付きを拾い上げ、学習につなげることができると考えた。

小1では教材文と挿し絵・写真などを比べさせることで、対象を認識させた。小3では教材文の語句と語句とを対比・類比させることで、作品の面白さに気付かせた。中1では教材文と他のテキストを比べさせることで、表現の特徴に気付かせたり、筆者のものの見方や考え方を読み取らせたりした。

読み取らせたことを基に、自分の考えをもたせる表現活動として、「書く」活動を取り入れた。

浮橋康彦は「書くことによって、認識が定着すると言える」⁴⁾と述べている。学習者は考えながら学習

に取り組んでいる。しかし、その考えは、漠然として、はっきりとしないことが多い。学習者は、その漠然とした考えを、「書く」ことで、明確にし、確かなものにしていくことができる。

そこで、本グループでは、単元末の「書く」活動に、図鑑作りや紹介文作りを設定し、学習者に、単元を通して、目的意識や相手意識をもたせ、意欲的な学習につながるように仕組んだ。毎回の授業の中でも分かったことや感想などを「書く」活動を取り入れた。「書く」活動の前に、小1では視覚教材、小3では語彙、中1では表現技法に着目させながら、内容・表現理解を十分に図ったことが、自分の考えを明確にさせることに効果的であった。

単元の初めと終わりの「書く」活動を比較すると、児童生徒の語数や語句などが増加し、考えの視点が多くなった。また、教材に書かれている内容だけでなく、形式や表現などに着目するなどの児童生徒の変化も見られた。さらに、読み取ったことを基に、児童生徒が自分の知識や経験とを結び付けて考えたり、ものの見方や考え方が広がったりした。児童生徒にとって、授業ごとの「書く」活動が考えの蓄積となり、そのため、単元末の「書く」活動では、より確かな考えをもてるようになった。

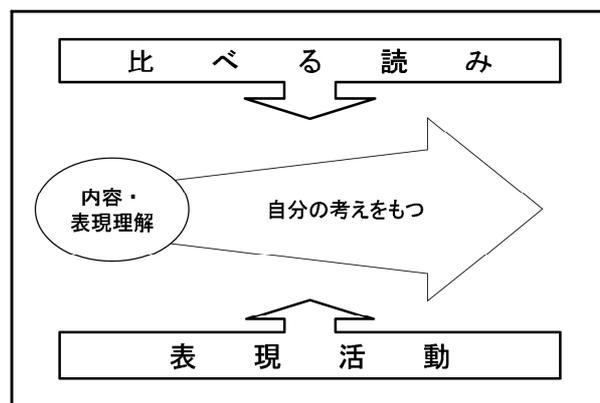


図2 比べる読みと表現活動

4 今後の課題

- (1) 「比べる」という読みの視点において、学習者の発達段階や、教材の特性に応じた系統性を見いだす。
- (2) 「書く」活動に関して、「書く」ことそのものが、考えをもつことに直結するような活動の手立てを見いだす。

《引用文献》

- 1) 文部科学省 『読解力向上に関する指導資料』 2006年 東洋館出版社 p.14
- 2) 植山 俊宏 「読解力」『国語科重要用語300の基礎知識』 2001年 明治図書 p.297
- 3) 和田 美保 「比較ということ」『文芸研・新国語教育事典』 2005年 明治図書 p.26
- 4) 浮橋 康彦 「認識的機能」『国語教育研究大辞典』 1991年 明治図書 pp.382-383

《参考文献》

- ・ 佐賀県教育委員会 『佐賀県教育の基本方針』 平成19年4月
- ・ 佐賀県教育委員会 『佐賀の子ども観・教師観・学校観～平成18年度佐賀県小・中学校学習状況調査～』 平成19年3月